

# 作品番号005-1



A



B



C



D



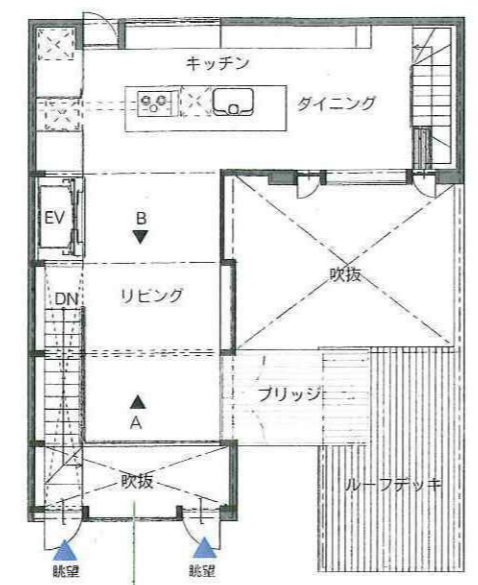
E



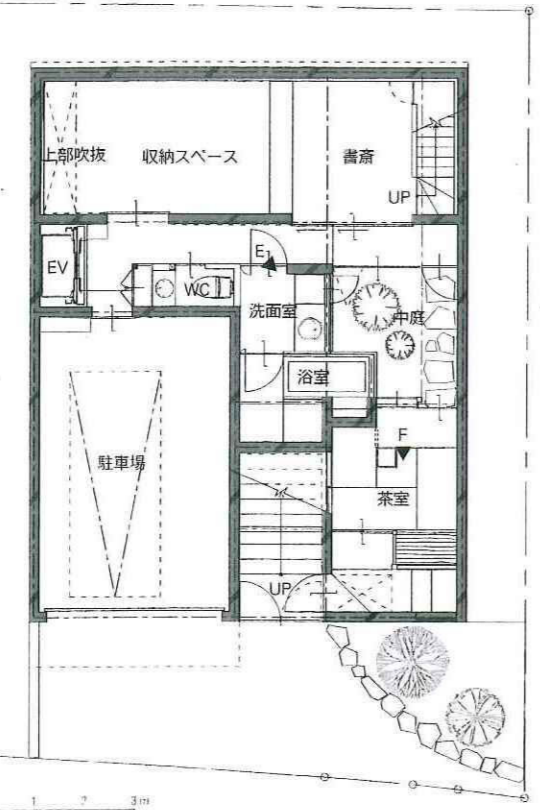
F

「XXXXXXXXXX」

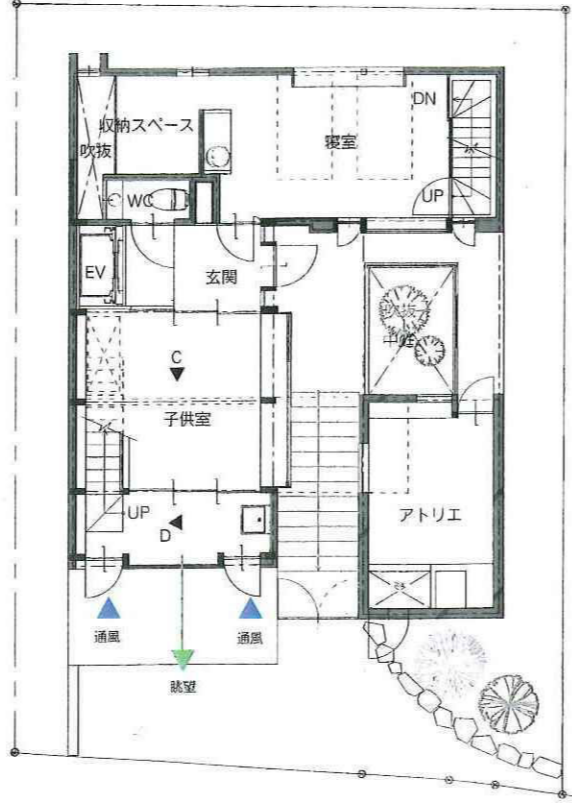
場所 XXXXXXXXXX  
 地区地域 第1種低層住居専用地域、法22条地域  
 第1種高度地区  
 用途 専用住宅  
 構造・規模 RC造・木造混構造 地下1階、地上2階  
 敷地面積 167.51㎡ (50.67坪)  
 建築面積 65.51㎡ 建ぺい率 39.10% > 40%  
 床面積 B F 85.33㎡ (駐車場含む)  
 延床面積 194.96㎡ (58.97坪)  
 家族構成 夫婦、娘1人、



2 F



B F



1 F





## 「住む」と「あそぶ」の間にある『磁力』

この住宅は、兵庫県芦屋市の急な傾斜地の住宅街に夫婦と子供の三人の家族のために計画した。西側と北側に敷地を取り囲むように「住む」ための居住棟を配し、南東に「あそぶ」をテーマとした地下の茶室と1Fのアトリエからなるユニットを配した。

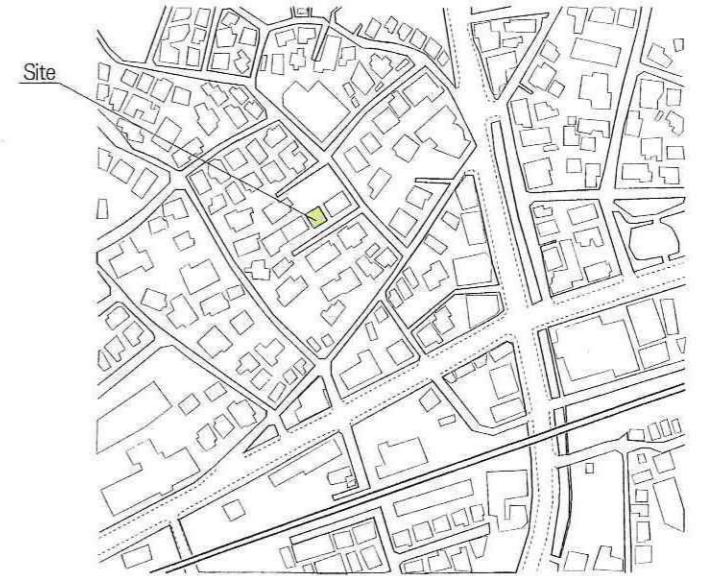
二つのユニットの間にある階段で敷地の内部にアプローチするが、石の階段を登り切ると二つのユニットとそれらをつなぐパーゴラブリッジに囲まれた中庭に出る。

訪れた人はどこかの小さな町の一角に迷いこんだような錯覚を覚える。

その囲まれた空間は、住居棟やそれと完全に分棟された茶室とアトリエへの通路であり、そこには新たな創造と癒しへの希望を育む力が働く。

また地下から上方につながるための連続空間であり、太陽の光や風の通り道として雨や雪が降り注ぎ、そこには四季を建物の内部に呼び込む強い力が存在する。そこに子供達が遊び、大人はふと自然を感じるのである。

「住む」と「あそぶ」の間にある「場」には人とその心をとらえ惹き付ける磁力が存在する。この「場」こそ住宅の本質であり光と風を使い手だけのものとして心を癒してくれるだろう。



### 通風・採光・眺望

この住宅は採光と眺望のために大型のガラスFIXを設け、通風のためには縦に伸びる二層分の木窓がそれぞれ、吹抜と階段室に沿って配置されており、十分な通風が確保されている。採光のシステムと通風のシステムを分離する事により、常に明快に切り取られた風景を楽しむ事が出来る。

